

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月13日
【四半期会計期間】	第69期第3四半期(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)
【会社名】	任天堂株式会社
【英訳名】	Nintendo Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 岩田 聡
【本店の所在の場所】	京都市南区上鳥羽鉾立町11番地1
【電話番号】	075 - 662 - 9600(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役 経営統括本部長 森 仁洋
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区浅草橋5丁目21番5号
	任天堂株式会社東京支店
【電話番号】	03 - 5820 - 2251(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役 営業本部東京支店長 河原 和雄
【縦覧に供する場所】	任天堂株式会社東京支店
	(東京都台東区浅草橋5丁目21番5号)
	株式会社東京証券取引所
	(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
	株式会社大阪証券取引所
	(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第69期 当第3四半期 連結累計期間	第69期 当第3四半期 連結会計期間	第68期
会計期間	自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日	自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日	自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日
売上高 (百万円)	1,536,348	699,468	1,672,423
経常利益 (百万円)	352,488	115,181	440,807
四半期(当期)純利益 (百万円)	212,524	67,695	257,342
純資産額 (百万円)		1,171,996	1,229,973
総資産額 (百万円)		1,768,030	1,802,490
1株当たり純資産額 (円)		9,163.52	9,616.69
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	1,661.81	529.35	2,012.13
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)		66.28	68.23
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	200,915		332,378
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	83,016		233,206
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	221,263		97,844
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)		1,035,341	1,103,542
従業員数 (人)		4,059	3,768

(注) 1 売上高には、消費税等を含みません。

2 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益」については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

3【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	4,059 [1,212]
---------	---------------

(注) 1 従業員数は就業人員数であり、当社グループからグループ外部への出向者を除き、グループ外部から当社グループへの出向者を含みます。また、常用パートタイマーを含みます。

2 臨時従業員数は[]内に当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員を外書きで記載しており、雇用期間の定めのある社員及びパートタイマー等を含み、派遣社員を除いています。

(2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数(人)	1,547 [419]
---------	-------------

(注) 1 従業員数は就業人員数であり、当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含みます。

2 臨時従業員数は[]内に当第3四半期会計期間の平均雇用人員を外書きで記載しており、雇用期間の定めのある社員及びパートタイマー等を含み、派遣社員を除いています。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1)生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績は、次のとおりです。

事業の種類別 セグメント	主要製品	金額 (百万円)
レジャー機器	ハードウェア	351,908
	ソフトウェア	195,865
	レジャー機器計	547,774
その他	トランプ・かるた他	497
合計		548,271

(注) 上記金額は、販売価格により算出し、消費税等を含みません。

(2)受注状況

当社グループ(当社及び連結子会社)は原則として見込生産ですが、レジャー機器部門のうち主にソフトウェアにおいて、一部受注生産を行っています。当第3四半期連結会計期間における受注状況は、次のとおりです。

事業の種類別 セグメント	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)
レジャー機器	49,221	4,849

(注) 上記金額には、消費税等を含みません。

(3)販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績は、次のとおりです。

事業の種類別 セグメント	主要製品	金額 (百万円)
レジャー機器	ハードウェア	450,698
	ソフトウェア	247,573
	レジャー機器計	698,272
その他	トランプ・かるた他	1,196
合計		699,468

(注) 1 上記金額には、消費税等を含みません。

2 相手先別の販売実績が総販売実績の10%以上となる主要な販売先はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに決定または締結した経営上の重要な契約等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当社グループは、「ゲーム人口の拡大」という基本戦略を掲げ、従来のゲーム機の遊び方に捉われないプレイスタイルを提案した携帯型ゲーム機「ニンテンドーDS」シリーズ及び据置型ゲーム機「Wii」と、これらのハードウェアの特性を活かし直感的にプレイしたり既存のゲームにはなかった分野を開拓したソフトウェアなど、老若男女を問わず一人でも多くの方々に日常生活の一部として受け入れてもらえるような製品の提供に努めてきました。その結果、当第3四半期連結会計期間の売上高は6,994億円、営業利益は2,491億円、経常利益は為替レートが急激に円高に推移し多額の為替差損が発生したことなどにより1,151億円、四半期純利益は676億円となりました。

売上を事業の種類別に見ますと、レジャー機器部門において、携帯型ゲーム機関連では、国内では平成20年11月1日に発売した「ニンテンドーDSi」が166万台の販売を記録し、米国及び欧州では「ニンテンドーDS Lite」が引き続き好調で、当第3四半期連結会計期間の全世界における販売台数は1,189万台となり、発売以来の総累計販売台数が9,622万台となりました。対応ソフトウェアについても、新作の「星のカービィ ウルトラスーパーデラックス」が全世界でヒットし、「わがままファッションガールズモード」も好調に推移したことや「脳を鍛える大人のDSトレーニング」などの息の長い自社ブランドタイトルに加え、ラインアップが充実した他社ブランドからも多くのヒットタイトルが生まれるなど当社グループの提唱する「ゲーム人口の拡大」が浸透してきた結果、当第3四半期連結会計期間の全世界における販売本数は7,875万本となりました。

据置型ゲーム機関連では、「Wii」が特に米国や欧州でのクリスマス商戦期に大きく売上を伸ばしたため、当第3四半期連結会計期間の全世界における販売台数は1,042万台となり、発売以来の総累計販売台数が4,496万台となりました。また、対応ソフトウェアも、周辺機器「Wiiスピーク」を使って遠く離れた友だちと会話を楽しみながら遊べる「街へいこうよ どうぶつの森」や様々な楽器を簡単に演奏できる「Wii Music」を発売し順調に売上を伸ばした他、「Wii」本体の販売拡大に伴い他社ブランドのタイトル数も増加し、「ニンテンドーDS」同様多くのヒット作に恵まれたため、当第3四半期連結会計期間の全世界における販売本数は8,237万本となりました。

これらの結果により、レジャー機器部門は売上高6,982億円、その他(トランプ・かるた他)部門の売上高は11億円となりました。

業績における所在地別セグメント状況を見ますと、日本では売上高が4,994億円(セグメント間の内部売上高3,968億円を含む)、営業利益が1,577億円、南北アメリカでは売上高が2,981億円(セグメント間の内部売上高5億円含む)、営業利益が159億円、欧州では売上高が2,741億円(セグメント間の内部売上高31百万円含む)、営業利益が228億円、その他の地域では売上高が251億円(セグメント間の内部売上高60百万円含む)、営業利益が7億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)は、第2四半期連結会計期間末残高から1,234億円増加し、1兆353億円となりました。各キャッシュ・フローの増減状況とその要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金は、好調な業績により、1,380億円の増加となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金は、主に有価証券の売却及び償還による収入により、1,712億円の増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金は、主に配当金の支払により、780億円の減少となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は8,605百万円です。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

提出会社は、本社近隣(京都市南区)に事業用地として土地128億円(40千㎡)を平成20年12月に取得しました。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3 四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末において計画中であった重要な設備の新設等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	400,000,000
計	400,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成21年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	141,669,000	141,669,000	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式 単元株式数100株
計	141,669,000	141,669,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成20年10月1日～ 平成20年12月31日		141,669		10,065		11,584

(5)【大株主の状況】

フィデリティ投信(株)及びその共同保有者から平成20年11月21日付で提出されました大量保有報告書の変更報告書及び平成20年11月26日付で提出されました訂正報告書により、平成20年11月14日現在における当社株式を以下のとおり所有している旨の報告を受けていますが、当社では当第3四半期会計期間末現在における当該法人名義での所有株式数が確認できません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (百株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
フィデリティ投信(株)	東京都港区虎ノ門4丁目3番1号	1,676	0.12
エフエムアール エルエルシー	アメリカ マサチューセッツ	57,439	4.05
計		59,115	4.17

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,782,700		単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 127,731,700	1,277,065	同上
単元未満株式	普通株式 154,600		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	141,669,000		
総株主の議決権		1,277,065	

(注) 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が25,200株含まれていますが、「議決権の数」欄には、同社名義の株式に係る議決権の数252個を含めていません。

【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 任天堂株式会社	京都市南区上鳥羽 鉾立町11番地1	13,782,700		13,782,700	9.73
計		13,782,700		13,782,700	9.73

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	59,400	61,800	63,900	61,600	55,000	54,600	44,050	36,400	36,850
最低(円)	51,200	55,700	55,200	52,600	47,750	41,500	21,600	25,240	28,120

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第一部におけるものです。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までに役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しています。

なお、第1四半期連結会計期間(平成20年4月1日から平成20年6月30日まで)より、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(内閣府令第50号 平成20年8月7日)附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び当第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、京都監査法人による四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	944,366	899,251
受取手形及び売掛金	260,259	147,787
有価証券	167,775	353,070
製品	98,091	92,617
仕掛品	576	200
原材料及び貯蔵品	9,022	12,023
その他	140,783	144,060
貸倒引当金	5,882	2,176
流動資産合計	1,614,993	1,646,834
固定資産		
有形固定資産	2 68,660	2 55,150
無形固定資産	1,748	2,009
投資その他の資産	1 82,629	1 98,495
固定資産合計	153,037	155,655
資産合計	1,768,030	1,802,490
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	424,420	335,820
未払法人税等	37,419	112,450
引当金	1,268	1,848
その他	124,360	117,103
流動負債合計	587,469	567,222
固定負債		
引当金	4,294	4,506
その他	4,270	786
固定負債合計	8,564	5,293
負債合計	596,034	572,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,065	10,065
資本剰余金	11,723	11,640
利益剰余金	1,366,392	1,380,430
自己株式	156,492	156,184
株主資本合計	1,231,689	1,245,951
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,848	5,418
為替換算調整勘定	63,657	21,495
評価・換算差額等合計	59,808	16,077

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
少数株主持分	116	98
純資産合計	1,171,996	1,229,973
負債純資産合計	1,768,030	1,802,490

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	1,536,348
売上原価	851,283
売上総利益	685,065
販売費及び一般管理費	
広告宣伝費	100,382
研究開発費	27,073
その他	56,279
販売費及び一般管理費合計	183,734
営業利益	501,330
営業外収益	
受取利息	26,272
その他	2,022
営業外収益合計	28,295
営業外費用	
売上割引	622
為替差損	174,233
その他	2,281
営業外費用合計	177,137
経常利益	352,488
特別利益	
投資有価証券売却益	84
その他	14
特別利益合計	98
特別損失	
固定資産処分損	55
投資有価証券評価損	6,115
特別損失合計	6,171
税金等調整前四半期純利益	346,415
法人税、住民税及び事業税	129,493
法人税等調整額	4,362
法人税等合計	133,856
少数株主利益	35
四半期純利益	212,524

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	
売上高	699,468
売上原価	381,451
売上総利益	318,017
販売費及び一般管理費	
広告宣伝費	40,654
研究開発費	8,604
その他	19,610
販売費及び一般管理費合計	68,869
営業利益	249,147
営業外収益	
受取利息	7,410
その他	356
営業外収益合計	7,767
営業外費用	
売上割引	270
為替差損	140,649
その他	812
営業外費用合計	141,732
経常利益	115,181
特別利益	
投資有価証券評価損戻入額	1,730
その他	129
特別利益合計	1,860
特別損失	
固定資産処分損	5
投資有価証券評価損	6,072
特別損失合計	6,078
税金等調整前四半期純利益	107,242
法人税、住民税及び事業税	2,075
法人税等調整額	37,451
法人税等合計	39,527
少数株主利益	19
四半期純利益	67,695

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	346,415
減価償却費	6,217
受取利息及び受取配当金	26,519
為替差損益(は益)	147,436
売上債権の増減額(は増加)	151,002
たな卸資産の増減額(は増加)	26,520
仕入債務の増減額(は減少)	63,420
未払消費税等の増減額(は減少)	1,627
その他	16,117
小計	373,936
利息及び配当金の受取額	26,579
利息の支払額	0
法人税等の支払額	199,599
営業活動によるキャッシュ・フロー	200,915
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	117,234
定期預金の払戻による収入	129,034
有価証券の取得による支出	331,767
有価証券の売却及び償還による収入	426,120
有形固定資産の取得による支出	19,566
投資有価証券の取得による支出	6,124
その他	2,553
投資活動によるキャッシュ・フロー	83,016
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	221,038
その他	225
財務活動によるキャッシュ・フロー	221,263
現金及び現金同等物に係る換算差額	130,869
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	68,200
現金及び現金同等物の期首残高	1,103,542
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,035,341

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
会計方針の変更	<p>(1)重要な資産の評価基準及び評価方法の変更 製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品 通常の販売目的で保有する製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品については、従来、移動平均法による低価法によっていましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用し、主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)により算定しています。なお、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。</p> <p>(2)「リース取引に関する会計基準」等の適用 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていましたが、第1四半期連結会計期間より「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 平成5年6月17日 最終改正平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号 平成6年1月18日 最終改正平成19年3月30日)を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっています。 また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しています。これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。 なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引続き採用しています。</p> <p>(3)「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用 第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号 平成18年5月17日)を適用し、連結決算上必要な修正を行っています。なお、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。</p>

【簡便な会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
法人税等の算定方法	法人税等の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっています。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
税金費用の計算	一部の連結子会社については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 0百万円	1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額 投資その他の資産 0百万円
2 有形固定資産減価償却累計額 47,309万円	2 有形固定資産減価償却累計額 46,929百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日)	
現金及び預金勘定	944,366百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	27,732百万円
取得日から3か月以内に償還期限の 到来する短期投資	118,706百万円
現金及び現金同等物	1,035,341百万円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 141,669千株

2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 13,783千株

3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。

4. 配当に関する事項
(1)配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	143,236	1,120	平成20年3月31日	平成20年6月30日	利益剰余金
平成20年10月30日 取締役会	普通株式	84,404	660	平成20年9月30日	平成20年12月1日	利益剰余金

(2)基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間
末後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)の取扱製品をその種類、性質、製造方法、販売市場等の類似性にて判別したところ、全セグメントの売上高の合計、営業損益の合計に占める「レジャー機器」の割合がいずれも90%を超えていて、また、当該セグメント以外で、開示基準に該当するセグメントがありません。従って、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しています。

【所在地別セグメント情報】

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	南北 アメリカ (百万円)	欧州 (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	102,601	297,652	274,077	25,136	699,468		699,468
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	396,806	515	31	60	397,413	(397,413)	
計	499,408	298,168	274,109	25,196	1,096,882	(397,413)	699,468
営業利益	157,756	15,949	22,800	715	197,221	(51,926)	249,147

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	南北 アメリカ (百万円)	欧州 (百万円)	その他の 地域 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	204,606	627,580	635,979	68,180	1,536,348		1,536,348
(2)セグメント間の内部売上高又は振替高	1,164,434	1,589	37	243	1,166,304	(1,166,304)	
計	1,369,041	629,170	636,017	68,424	2,702,652	(1,166,304)	1,536,348
営業利益	450,560	33,491	39,520	3,307	526,880	(25,549)	501,330

(注) 1 国又は地域の区分の方法は、地理的近接度によっています。

2 本邦以外の各区分に属する主な国又は地域は、以下のとおりです。

南北アメリカ：米国、カナダ

欧州：ドイツ、フランス、イギリス、オランダ、スペイン、イタリア

その他の地域：オーストラリア、韓国、中国、台湾

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	南北アメリカ	欧州	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	298,139	274,080	26,256	598,477
連結売上高(百万円)				699,468
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	42.6	39.2	3.8	85.6

当第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	南北アメリカ	欧州	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	628,838	635,990	74,303	1,339,133
連結売上高(百万円)				1,536,348
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	40.9	41.4	4.9	87.2

(注) 1 国又は地域の区分の方法は、地理的近接度によっています。

2 各区分に属する主な国又は地域は、以下のとおりです。

南北アメリカ：米国、カナダ

欧州：ドイツ、フランス、イギリス、オランダ、スペイン、イタリア

その他の地域：オーストラリア、韓国、中国、台湾

3 海外売上高は、提出会社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高です。

(リース取引関係)

前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
1株当たり純資産額 9,163.52円	1株当たり純資産額 9,616.69円

2. 1株当たり四半期純利益等

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
1株当たり四半期純利益 1,661.81円	1株当たり四半期純利益 529.35円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
四半期純利益(百万円)	212,524	67,695
普通株主に帰属しない金額 (百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	212,524	67,695
普通株式の期中平均株式数 (千株)	127,887	127,886

(重要な後発事象)

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
該当事項はありません。

2【その他】

中間配当については、平成20年10月30日開催の取締役会で次のとおり決議しました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....84,404,902,560円

(ロ) 1株当たりの金額.....660円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成20年12月1日

(注) 平成20年9月30日における最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録されている株主または登録
質権者に対し、支払いを行います。

重要な訴訟事件等

平成14年10月30日、欧州委員会(Commission of the European Communities)は、当社グループの欧州における平成
10年までの過去の取引行為がE U条約81条等で禁止されているE U域内共通市場での競争の制限に当たるとして、
罰金149百万ユーロを課す旨の決定をしました。

これに対し当社グループは、罰金が不当に高額であるとの判断により、平成15年1月16日、欧州第一審裁判所
(Court of First Instance of the European Communities)に控訴し、現在、訴訟手続きが進められています。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 2 月12日

任天堂株式会社
取締役会 御中

京都監査法人

指定社員 公認会計士 松 永 幸 廣 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 鍵 圭 一 郎 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている任天堂株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、任天堂株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。